

高校の教育は変わりつつある。 社会変化へ柔軟に対応できる力を養い、 生徒の特性に合った大学を提案したい。

探究学習の中で気づく 特性に合ったキャリア

——大学の教育力の高さはどこで判断しているか？

教育力を見る際、まず重視するのは「教える内容×教え方」です。例えば産業能率大は、経営学を教える際に、ケースメソッドを取り入れていきます。このように学問分野にマッチした柔軟な学びの工夫がある大学には目が行きます。このランキングでは高校教員の評判調査で「入学後の能力伸長」を聞いていますが、大学には学生が入学から卒業まで、どのくらい成長したか、やり遂げたかがわかる情報の公開を望みます。

——グローバル人材育成についてはどうか。

私は、グローバルな人材を「地球規模から身の回りまでの視点を切り替えて考えられる人」と捉えています。その教育では「物事を

鳥の目、虫の目、魚の目、コウモリの目で捉える」ことが重要です。グローバル教育は決して留学、外国語、外国人教員という要素だけではありません。

本校の最近の卒業後の進路は、大学・短大が3割強、専門学校が5割弱、就職・その他が2割強であり、ある意味で多様性のある学校です。この多様性を生かした教育を行いたいと考えています。探究学習の一環として、「探究ゼミ」を実施しています。これは、10の大学や専門家と連携して10分野のゼミを開講し、生徒は関心のあるゼミに所属して一年間かけて主体的に学びます。グループで学び合う中で、自分の特性を自覚し、自分のキャリアについて考えるようになることを期待しています。その結果、進学先をネームバリューではなく、自分の特性に合う大学を進学先として主体的に選ぶようになってほしい。特にVUCAの

千葉県立浦安高校 総務部長

久保善啓

くぼよしひろ ●青年海外協力隊勤務を経て高校教員に。教職歴8年。探究学習に必要なタブレット購入費をクラウドファンディングで贈うなど、型破りな手法で教育改革に挑戦中。

時代におけるキャリアは、変化へ柔軟に対応できることが重要です。私個人としては職業が限定的になる進路よりも、キャリアが柔軟になる教養が学べる大学進学を勧めたいです。

——日本版で注目した点は？

長岡技術科学大、会津大、APU、国際教養大、金沢工業大など、上位の大学は、学力の偏差値ではないところで「なぜ、高く評価されているのか」が気になるので調べます。その際に、大学側がその裏付けとなる情報を公表している、生徒にも勧めやすくなります。逆に、具体的な教育のイメージがわくような情報が公開されていない大学は、結局、知名度の高い大学に負けてしまうのではないのでしょうか。

——大学に伝えたいことは？

「探究ゼミ」の提携先を探す際に興味を持ち、積極的に話を聞いてくださった大学は、「教育的な

視点に立った高大連携に熱心な大学」だと感じました。実際にご協力いただいた大学には頭が下がります。

本校は*ユニティ・スクールであると共に、県の福祉教育推進校に指定されているため、多くの場面で地域の皆さんの力を借りています。これにより学校は刺激を受け、社会のために、今、どんな教育が必要なのか、考える日々です。教員が教科書を教え生徒が習う時代から、生徒自らが問う時代になっていきます。大学には、各高校の取り組みに目を向けてもらい、高校で培った生徒の多面的な強みを評価して、受け入れ、成長を促してもらいたいと思います。

千葉県立浦安高校

千葉県浦安市／普通科。1学年約240人。進路実績は私立大・亜細亜大・国土領大・駒澤大・東洋大・二松学舎大などに延べ50人が合格。短大専門学校進学115人、就職33人。

*保護者・地域住民、有識者などが学校運営に参画する制度。「開かれた学校づくり」を実現するのが狙い。全国507校(2019年)が導入している。